

唐津の映画館・劇場など

～旧唐津を中心とした昭和の娯楽施設～

市民の娯楽として、唐津市に劇場がはじめて建ったのは明治19年ごろであるといわれている。

大正3年には、「近松座」が開場、6代目尾上菊五郎、長谷川一夫などの有名俳優が次々と来唐している。

また、近松門左衛門ゆかりの寺と伝えられる禅寺近松寺があるためか唐津でも浄瑠璃好みの層は一時大変な数に上り、大正12年秋には、近松寺で九州浄瑠璃大会が催され、全国から百数十人の語り手が集まったこともある。

昭和23年前後から流行し出したパチンコは唐津でも大手口を中心に各所にその遊技場が軒を並べるようになり、その後もずっと衰えないのみかますます盛んになっていくようである。

更に昭和40年頃からボウリングも盛んになり、旧唐津だけでも6箇所が数えられた。

映画が日本に上映されだしたのは明治末期からで、唐津では大正2年、「活動写真館・世界館」が県下初の映画館として建設された。

映画は、戦後、庶民の最大の娯楽として親しまれ、映画華やかなりし昭和30年頃には唐津にも7館あり、平成の初めころまで東宝大劇や中央大劇といった映画館が複数存在していた。

分野

産業

◎地図・写真・統計資料など



唐津近松座 外観



世界館 外観

(唐津新聞社より)

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html